

平塚らいてうの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

コロナ禍で縮小してのオープンでしたが、オーボエ演奏では音色から人類の平和を願う想いが伝わってきました。充実したスタートが出来たことは何よりかと思えます。その様子を地元上田ケールビジョンが取材し、会のホームページにも載せてあります。

その後、団体予約が次々入ってようやく以前の活動が戻るかと思った矢先に感染拡大が始まってしまいました。残念ながら7月の折井さん、8月の米田さんのらいてう講座を中止せざるをえなくなりました。

*

折井さんの講座はコロナ禍により、ここ3回中止となっています。心待ちにして下さっていた方々がとても残念と言っておられました。

また、米田さんの新しい角度からの「らいてう」を聴きたかったと残念がっておられた会員の方が何人もおられました。

団体予約も中止の連絡が幾つか入って来ましたが、10人前後のグループ来館は密にならないのでかえって好都合だったのか、直後に俳句の会、退

職教職員組合、伊那市の新婦人の会等が来館されています。8月、9月には東御市の男女共同参画課、大阪の新婦人の会、地元上田真田婦人会も来館されて半日かけて見学・学習されていきました。「らいてうの想いは昔の考えではなく、今の時代に当てはまる。勉強になりますね」と感想を語ってくださいました。まさに、「今生きるらいてうのころざし」です。家通信に詳細を掲載してありますのでお読みください。

直接の来館には繋がらないですが、今年度は上田市で、長野県全体の催しがあり、らいてうの平和へのメッセージを発信することができました。

他団体活動への参加

一つは、第65回長野県母親大会です。当初分散会としてらいてうの家見学が計画されたのですが、コロナ蔓延予防でDVDによる紹介参加となりました。オンラインによる全県配信です。らいてうの家が広く紹介でき、母親大会の先駆者らいてうを深く知っていただける良い機会でした。メイン会場では75名、パブリック会場が29会場、個人285名の参加でした。実行委員長は挨拶で、らいてうの言葉「途中、どんなに困難に試されることであろうとも、わたくしは永遠に失望しないでしょう」を、女性解放、平和と生命を守る母親

運動につないで、母親大会の果たす役割の大きさを語りました。



らいてうのパネルも展示された「平和のための信州戦争展」のチラシ

もう一つは、第33回平和のための信州戦争展 in 上田です。

県下4ブロック持ち回りで開催されています。愚かな戦争の実態や証言、映像などを通して平和な世界を築くために大切にしたいことは何かを考え合う会です。展示には、らいてうからのメッセージとして家からもパネルを出しました。ニュース7月号に載せました、山本宣治の農労葬を描いた「告別」(大月源二作・複製)も展示されました。また、ピーストークにはらいてうの会の会員である宮島満里子さん(96歳)が戦争体験の話で参加されています。平和を願う熱い思いが伝わってきました。(沓掛美知子)

らいてう講座のご案内

日時：2022年12月3日

1:30~3:30

(オンラインのみ)

申込：平塚らいてうの会

raichou@nifty.com

締切：11月10日

参加費：会員500円

未会員1000円

講演

「近世～近代日本における
売春観の変容について」

講師

横山百合子さん

国立歴史民俗博物館名誉教授



奥村明史さん ジャズ演奏と祖父博史を語る

2022年7月30日午後1時半、らいてうの家でジャズが演奏されました。演奏をしてくださったのはらいてうと博史の息子敦史さんの息子明史さん（つまりお孫さん）とその御友人、田村雅徳さんでした。

明史さんのピアノと田村さんのベースの息はぴったりと合い、ジャズのフーリングに酔うことのできたとても素敵な時間でした。まず「オンザサニーサイドオブザストリート」でジャズのスイングに乗り、約1名は廊下に出て一人で踊っていました。明史さんがピアノに親しんだのはやはり祖父博史さんのピアノがあったからとのこと。ピアノの1台目は1923年の関東大震災で焼けてしまい、その後成城へ移ってから新しい家計の中で無理をして買ったドイツ製のピアノでした。今は明史さんの家にあり健在とのこと。フルートも何とかして購入。フルートは敦史さんが吹いていたそうです。博史さんはほしものがあるとどんなことがあっても手に入りたい人！ おばあちゃんは博史が逃げ出さないよ

演奏曲目

- 1 On the sunny side of the street（明るい表通りで）
- 2 Love（ラヴ）
- 3 The days of wine and roses（酒とバラの日々）
- 4 Satin doll（サテンドール）
- 5 Confirmation（コンファメーション）
- 6 On green dolphin street
（オングリーンドルフィンストリート）
- 7 I'll close my eyes（瞳をとじて）
- 8 Autumn leaves（枯葉）
- 9 But not for me（バットノットフォーミー）



当日展示された絵や指輪などの思い出の品々

うにいつも気を配っていたようだった。博史は湘南ボーイ！ほそっとしてほやと立っている。真つ正直で人をだますことができない人だった。絵を描くことが好きで日本水彩画研究所へ通った。のちに洋画に転じて1914年第1回二科展に油絵「灰色の海」が入選。しかしあまり画家として評価はされなかった。明史さんとしては展覧会のために描いた作品より、自由に描いた作品が好きだと言われてお持ちくださった。らいてうの実家・曙町（現文京区本駒込）でのらいてうの姉親子を描いたものと仏像の絵でした。1年間お借りしてあるのは立派な額に入った静物画です。

博史さんが指輪を作っている傍らで、明史さんはいつもピアノにさわっているらしかった。その素養があったから大学へ行って音楽のグループに入れたのでしょね。そして退職後の今、お友達とジャズの演奏会を楽しんでいらっしゃる。博史さんはとてもおしゃれで服装のセンスもよかった。らいてうさんの洋服も博史さんのセンスでえらんだのでは・・・とのこと。途中、豪雨の訪問もありましたが、ジャズにはかなわずあつさり退散。おかげで夜の星空もしっかり輝いてくれました。来年も楽しみにしています。（杉山洋子）

BS-TBS 「歴史鑑定・平塚らいてう」を見て 事実の改変と

全く触れられていない重要な事実と

2022年5月2日、BS-TBSの番組「につぼん！歴史鑑定―婦人運動家・平塚らいてう」が放映されました。



BS-TBS「歴史鑑定」ホームページのタイトル画像

1961年にインタビューしたらいてうの肉声を随所に交えながら、多くの写真、ドラマ、アニメ表現、字幕の説明文などではじめてらいてうを知る視聴者にもわかりやすく伝える工夫がされて、ジェンダー平等の先駆者としてのらいてうを紹介する貴重な番組でした。しかし、事実と異なる表現も見受けられ、らいてうの真の姿を伝えるために幾つかの点を指摘しておきたいと思います。

*

塩原事件―らいてうの人生を変えたスキャンダル、『青鞥』発刊のきっかけとなった事件であるとするのは妥当な評価なのですが、その内容紹介にいくつかの事実誤認が見受けられます。まず、森田草平と塩原にでかける前、部屋を片付け、約束の時間までに間があつたので線香を立てて最後の座禅をしました。それが番組では、「仏壇に線

香をあげ」と全く違う行為とされています。

次に塩原で雪の尾頭峠に分け入った断崖の上でのシーンでは草平の言葉と懐剣を誰が捨てたかに事実との違いがあります。番組では草平は「私はあなたを殺せない。私を愛してもいないあなたを殺すことはできない。もう殺すのはやめた！」と言います。しかし、らいてう自伝によれば「僕は意気地のない人間なのだ、人を殺すことなどできない。あなたなら殺せると思ったけれど、だめだ」と言っています。

そして懐剣を谷底に投げ捨てたのはらいてうではなく草平でした。ところが番組ではらいてうが懐剣を投げ捨てたとされています。懐剣は母の嫁入り道具で投げ捨てるなど考えられないものでした。であるにもかかわらず、このような改変が行われたのは、このシーンを若い男女の愛の破綻とらいてうの怒りによるそこから再生として描こうという意図によるものでしょう。ですからドラマでは、東大卒の青年との恋とされ草平に故郷に妻子があり、東京では同棲している女性と暮らしていることは触れられません。二人の関係は恋愛ではなく、しかし互いに惹かれ合うという理解しづらい関係であり、それをわかりやすい恋愛ドラマに改変しています。又、新聞などによるらいてうへの非難と揶揄が集中したことは紹介されても草平がこの事件を小説「煤煙」として文壇デビューしたことは番組上では伝えられません。同じ事件の当事者でありながら、この社会的評価の差異にさらされたことこそがらいてうに『青鞥』の発刊の辞を書かせる力を与えたと思われま

*



番組で使用されたらいてう、博史の写真。
1927年に転居した成城の家の前で。当時、らいてう41歳

らいてうが事実婚を選択した場面に、ずっと後の成城の家の前での二人の写真の使用は適切ではありません。

*

新婦人協会では、体調不良だけでなく周囲に理解されないという孤独感により女性解放運動から身を引いたとするのは事実と異なります。

*

療養後、協同自治社会を目指して成城の地で消費組合運動を組合長として戦時まで続けたことは全く紹介されません。

戦後の日本国憲法に力を得て平和と婦人運動に生涯をかけた人としてらいてうを詳しく追った番組だけに、わかりやすくということと事実改変していることは歴史番組としては許されないのではないのでしょうか。又らいてうの運動経験の中で最長の9年持続した消費組合の活動に全く触れられないことなどもらいてうの真の姿をあいまいにし残念です。

(三留弥生)

シリーズ「新婦人協会の人々」No.12



有島武郎

新婦人協会の発足にあたって、らいてうは有島武郎に後援を依頼した。有島は早くそれに応じ、らいてうと同じ田端に住む、元台湾銀行頭取夫人の佐田文世を紹介した。文世は、婦人の経済的独立を主張し、自身も台湾料理店を開いて働く、当時としては異色の「名流婦人」であったが、新婦人協会のための寄付に応じるなど協力をおしまなかった。

さかのぼって1915年、奥村博史が肺結核治療のために茅ヶ崎の南湖院に入院していたとき、有島の妻安子も同じ病で、平塚の杏雲堂病院に入院中であった。有島は、病床の妻を慰めるために、友人知人らに妻宛の手紙を頼んだ。博史がそれに応えて、安子との間に手紙が交わされたが、やがて安子は28歳の若さで死去した。この報に接した博史が、暑い時期には貴重な白菊を携えてかけつけると、有島はその心遣いを大変喜んだという。

1917年5月、妻の死をモチーフにした戯曲「死と其の前後」を発表、これを皮切りに旺盛な

創作活動を開始した。この戯曲は、同年10月に芸術座の研究劇として神楽坂芸術倶楽部で上演され、らいてうと博史は有島から招待されて観劇している。

1920年4月末、新婦人協会は研究部を政治法律部・社会部・教育部に分けた。政治法律部ではさつそく「政治法律夏期講習会」を計画した。この講習会は、7月25日から31日までの7日間、午前9時から11時の時間帯で、お茶の水の東京女子高等師範学校内の作楽館を会場として開催された。

第5日目にあたる7月29日には、午後6時から「科外講演」が組まれ一般公開された。講師と演題は、布施辰治「婦人問題と法律上の女」、長谷川如是閑「性的生活と社会問題」、そして有島武郎の「文芸雑感」であった。有島は雑誌『白樺』の同人で、前年の1919年、本能に従って生きる女性・葉子を主人公にした「或る女」を発表し、知識人や学生の間にセンセーションを巻き起こしていた。

『女性同盟』2号には、この「科外講演」について、「会するもの婦人ばかり約三百名、停電の故障でローソクをつけて伺った次第でしたが、いい集まりで御座いました」という報告がされている。

また、『女性同盟』創刊号には、発会式までの寄付金の総額は985円という会計報告とともに「発会式以前の寄付者」として16名の氏名が公表されているが、もちろん有島武郎の名前もある。

(折井美耶子)

【事務局日誌】

- 7月22日 第1回代表理事会(オンライン併用)
7月30日 らいてう講座①音楽鑑賞と星空観察会
ジャズコンサートと博史のお話
講師・奥村明史さん(ピアノ)
田村雅徳さん(ベースギター)
夏の星座鑑賞 講師・安達永真さん
(於らいてうの家)
8月24日 NHKドラマ「風よ あらしよ」PR
番組放映(31日も)
9月4日 BSプレミアム「風よ あらしよ」放映(11、18日も)
9月6日 法政大学大原社会問題研究所「平塚らいてう資料研究会」(オンライン参加)
9月15日 第3回理事会(オンライン併用)
9月17日 らいてう講座②地元「らいてう ゆかりの女性たち」講師・杉山洋子さん
(於らいてうの家)

▼会費・ご寄付などのご送金いつもありがとうございます
います。2022年度の会費未納の方はご送金を
よろしく願います。

●郵便振替口座

00150-9-553046

NPO・平塚らいてうの会

●みずほ銀行新宿西口支店 普通預金

口座番号 4815505

特定非営利活動法人平塚らいてうの会